

55 理療教育諸情報のデータ化への試み ～そこから見えてくるもの、思うこと

自立支援局 太田浩之 岩本 稔 漆畑和美（理療教育課）

森田勝義（総合支援課）

【趣旨と目的】 就労移行支援（養成施設）の利用者数とその態様、支援状況、国家試験結果や進路情報等の事業成果は各年度事業報告等に概観される。本年度運営方針の一つに位置づけられた本業務の目的は、さらに利用者個々に踏み込んだ情報や支援状況等のデータ整理と活用により、近年行政機関に課せられた情報公開と説明責任の責務を担うとともに、理療教育という福祉サービスの質的向上に資することにあると考えている。本稿はその最初の報告である。

【方法】 業務用情報システムに一部データの CSV 出力の機能もあるが、データの未入力や不統一等の理由により、容易なデータ分析・活用環境にあるとはいえない。情報システム再検討に先立ち、一部クラスを対象に Excel 記録シートを各業務担当に提供、データ収集と蓄積を図った。それらを統合して Excel のデータ処理機能による集計、分析を行い、より精細な利用者像とサービス提供の実態を反映する意義のあるデータ発見を試みた。また、利用開始前後の利用者の意識の把握とその経年的変化の表現を目的に、1年生を対象に質問紙調査を実施した。

【途中集計と考察】 2012年10月末までのデータ収集、編集・分析より得られた情報を一部紹介する。▽今年度1年生38名（男性28名、女性10名、平均年齢 37.7 ± 12.2 歳）のうち、視覚以外に認定障害を有するのは21.1%、他疾病を有するのは60.5%。平均年齢が例年よりやや低いこと、あん摩師受験資格保有者6名の在籍に特徴がある。▽1年生中、理療の職業に好印象を持つとする者は68.4%、入所に向け意欲的だったとする者は63.4%、入所後の学習に対して積極的とする者は57.9%に留まる。卒業後の希望進路・目標がない者は42.1%。健康観や職業観の涵養、理療師への動機づけ段階に課題が見られるのは例年を象徴する事象と思われるが、その対応に福祉サービスとしての真価が求められる。▽正規配当授業以外にも教官は、成績不振者に対する補習授業に加え、利用者個々に応じた学習や就労、生活全般等への相談支援にも相応の時間を提供している。▽専門課程を利用するあん摩師受験資格保有者の中退率、国家試験不合格率は相対的に高く、教育水準低下を招く遠因になる。近時の教育法制改正を受けた学則変更による導入諸制度への検証作業が望まれる。▽あはき国家試験の視覚障害者の全国受験者数が漸減傾向にある中、募集活動の強化により理療教育の利用者数はやや回復傾向にある。▽2005年度から2010年度までのあん摩師国家試験の現役合格率平均は81.0%、これに卒後2年間を加算、再集計すればその合格率平均は92.3%となる。在籍中及び卒業後のフォーマル、インフォーマルな教育的営為の証左として、さらに実態データの収集、蓄積まで拡大したい。

【終わりに】 社会復帰への不安と期待に揺れながら、患者、受障者である一人の利用者が理療教育の学修を通して、医療人のひとりへと成長・変貌する過程を多く見てきた。理療教育情報データ化への試みは、情報公開や新たな支援仮説、エビデンス創出に貢献するのみではない。そこから得られる利用者の社会参加に至るプロセスの可視化が種々の事例報告と相互補完的に作用して、専門分化する組織体制の中に巨視的、複眼的な俯瞰の視座を与える。団塊世代の退職、世代交代を迎えた今、その総体的な展望から得られるものが職員育成に寄与する力は大きい。